opusdei.org

## 2. 東方の星とは何の ことでしょうか。

福音書が書かれた頃は、重要な人物の誕生や重大な出来事が生じる時、それを告げる不 思議な出来事が天に起こると 信じられていました

## 2016/09/28

東方の星については聖マタイが福音書の中で述べています。エルサレムで博士たちが尋ねます。「お生まれになったユダヤの王はどこにおられますか」(マタイ2,2)。

聖マタイと聖ルカによる福音の最初 の二章はイエスの幼年時代のいくつ かの出来事を記しています。「幼年 期の福音」と呼ばれる由縁です。星 は聖マタイの「幼年期の福音」に現 れます。幼年時代を語る福音はいず れも他の福音書と多少異なる特徴を 備えています。旧約聖書を呼び起こ すことが多く、各々の出来事に深い 意味が読み取れます。というわけ で、幼年期の福音書の歴史性を、福 音書に現れる他の出来事と同じよう に検討するわけにはいきません。ま た、同じ幼年期に関する記述であっ ても違いがあります。聖ルカの場 合、幼年期は福音書の第一章に書か れてあり、聖マタイの場合は、テキ スト全体の要約と言えます。博士た ちに関する箇所では(マタイ2,1-12)、イスラエルに属していない異 邦人が数人現れます。彼らは研究と 人間的な知識(星)を通して、神の 啓示を発見します。しかし、イスラ

エルの聖書の助けを得なければ、真理を十全に知ることができません。

福音書が書かれた頃は、重要な人物 の誕生や重大な出来事が生じる時、 それを告げる不思議な出来事が天に 起こると信じられていました。異邦 人の世界でも(スエトニオやキケロ の著作参照) ユダヤ人の間でも (フ ラビオ・ジョセホ) 同じでした。さ らに、民数記の22章から24ではひと つの御告げを記しています。「ひと つの星がヤコブから進み出る。ひと つの笏がイスラエルから立ち上が る | (民数記24.17)。この章句はメ シア(救い主)に関する救いの御告 げであると解釈されていました。こ のような点が星の印を適切に解釈す るための背景になります。

近代の聖書解釈学では、当時の人々が特別な出来事と解釈した自然現象とは何であったかについて問いかけました。仮説は主に三つあります。

1) すでに、12世紀、ケプラーは新 しい星・超新星について書いていま す。それは非常に遠いところにある 星で、爆発が起こり、その星の光は 数週間持続するので地上からも見る ことができる。2) 彗星(すいせい) である。彗星は規則正しい軌道では あるが楕円 (だえん) 軌道に従って 太陽の周りを運行する。最も遠い軌 道は地球から見ることができない が、ある一定の期間近づいたときに は観察できる。これはマタイが記述 するしるしと一致するようです。し かし、地球で観察できる彗星の出現 は聖書のいう星の時期と一致しませ ん。3)木星と土星の出会い。ケプ ラーはこれについても注意を呼び起 こしています。この現象は定期的に 発生します。計算が正確であるとす れば、紀元後6~7年に起こったと 考えられます。これは研究によって イエスの誕生のときであると言われ ています。

参考書: A. PUIG, Jesús. Una biografía, Destino, Barcelona 2005; S. MUÑOZ IGLESIAS, Los evangelios de la infancia. IV, BAC, Madrid 1990; J. DANIELOU, Los evangelios de la infancia, Herder, Barcelona 1969

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/iesu-shitsumon-2/ (2025/12/16)